

7-8

演題	お年寄りにやさしいまち六角橋オレンジPJ
副題	～コロナ禍における多職種連携の事業継続～

活動継続方法
認知症啓発

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	横浜市六角橋地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	安信 昌子 その他
共同発表者	佐々木 朝子
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市神奈川区六角橋 3-3-13
TEL	045-413-3281
FAX	045-488-3138
メールアドレス	rokkakubashi_cp@wakatake.or.jp
URL	https://wakatake.net

今回の発表施設 またはサービスの 概要	地域包括支援センター・地域活動交流部門・居宅介護支援部門・生活支援体制整備の4部門 ある横浜市独自の福祉・保健の拠点。 【地区データ】人口38,779人 高齢人口8,885人 高齢化率22.91%(2022年3月現在の状況)
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

2016年から継続して行ってきた認知症啓発を目的とした「オレンジプロジェクト」は、活動を重ねる度に関係施設の連携が広がっていった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、継続が難しくなった。

そんな中でも「つながりを諦めない」を、形にした実践を発表する。

取り組んだ課題

対面中心だった活動が、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催自体が難しくなる。また、参加していた学生が卒業し関係が途絶えてしまった。そんな中、関係構築から取組みを再開。コロナ禍でいかに活動を継続していくかが課題であった。

具体的な取り組み

【コロナ禍で出来る事】

- 小学校との関係継続
- 認知症を知ろうポスター制作・各町内会様への掲示依頼
- コンサートの開催
- 少人数認知症啓発講座
- コロナ禍ならではのオンライン講座

活動の成果と評価

- 認知症ポスターが全国でダウンロード可能になりポスターの周知拡大につながる
- 認知症ポスターを小冊子にし、民生委員や地域の方への配布
- 認知症ポスターをまちで掲示し、まち全体で認知症を啓発する動きがあった
- メディア掲載(神奈川区タウンニュース・読売新聞・「横浜・人・まち・デザイン賞」受賞)

今後の課題

- 小・中学校世代にむけた認知症啓発
- 六角橋地域から包括担当エリア内への認知症啓発拡大

- 新型コロナウイルス感染症で途絶えたつながりの回復
- 「もし家族の人が認知症になったら」と自分ごととして考えられるような普及活動

参考資料など

- ポスター「認知症を知ろう」コミュニケーション編・早期発見編・介護者編
- みまもり協力店になりませんか？ 2019年3月発行
- 認知症サポーター養成講座標準教材 認知症を学び地域で支えよう 2018年7月発行